

2022年度多職種役割分担推進計画(2021年度の計画振り返りを含む)

計画番号	役割分担業務内容	関連部署	計画担当者	目標達成年次	2021年度の計画	2021年度の振り返り	2022年度の計画
1	初診時の予診の実施	医局 看護部 視能訓練科	加藤部長	実施済 (2022年度も継続)	アイセンターでは主に視能訓練士が、アイセンター以外の診療科では看護師が継続して実施する。救命救急委員会と連携して、看護師のトリアージの質向上のための教育計画立案を検討する。	初診時の予診は継続して実施できた。救急外来ではシステムの導入を検討したが、コストと院外研修が必要なため行わないこととした。	引き続き初診時の予診を実施する。救急外来でAI問診を導入するかどうかを検討する。
2	静脈採血等の実施	医局 看護部 中央検査科	加藤部長	実施済 (2022年度も継続)	外来患者に対しては、点滴や静脈注射がない場合、臨床検査技師が継続して実施する。入院患者に対しては看護師が継続して実施する。	継続して実施できた。	外来患者に対しては、点滴や静脈注射がない場合、臨床検査技師が継続して実施する。入院患者に対しては看護師が継続して実施する。
3	入院の説明の実施	医局 看護部 事務職員	加藤部長	実施済 (2022年度も継続)	アイセンターでは外来看護師が、アイセンター以外の診療科では患者支援センターのスタッフが入院の説明を継続して実施する。入院時オリエンテーションは、病棟看護師と看護補助者が内容を分担して継続して実施する。夕方外来での入院説明の要件数を確認し、同時間帯での対応が実現可能かどうかを検討する。	継続して実施できた。土曜午前には月に数回、患者支援センターでの説明が可能になった。夕方外来での要件数の確認は新型コロナ対応でできなかった。	アイセンターでは外来看護師が、アイセンター以外の診療科では患者支援センターのスタッフが入院の説明を継続して実施する。入院時オリエンテーションは、病棟看護師と看護補助者が内容を分担して継続して実施する。夕方外来での入院説明の要件数を改めて確認し、同時間帯での対応が実現可能かどうかを検討する。
4	検査手順の説明の実施	医局 看護部 中央検査科 放射線科 視能訓練科 事務職員	加藤部長	実施済 (2022年度も継続)	眼科疾患説明ビデオをアイセンター外来待合で流す。医師や看護師が検査手順の説明を行っているものを検査ごとに見直し、整理して計画を立てる。	眼科疾患説明ビデオをアイセンター外来待合で流していたが、年度の途中で外来待合工事があり一旦中止した。大腸内視鏡検査の説明用紙を改定し、術前PCR検査の手順を作成した。	引き続き医師や看護師が検査手順の説明を行っているものを検査ごとに見直し、整理して計画を立てる。
5	服薬指導	医局 薬剤科	後藤科長	実施済 (2022年度も継続)	外来患者と入院患者に対して、薬剤師が実施する体制を継続する。退院後に他の調剤薬局や看護師とスムーズに連携できるよう、退院時服薬指導のフォーマット作成を継続して行う。	継続して実施できた。退院時服薬指導のフォーマットを作成したが、指導件数を増やすまではいかなかった。	外来患者と入院患者に対して、薬剤師が実施する体制を継続する。退院後に他の調剤薬局や看護師とスムーズに連携できるよう、作成した退院時服薬指導のフォーマットを活用する。

2022年度多職種役割分担推進計画(2021年度の計画振り返りを含む)

計画番号	役割分担業務内容	関連部署	計画担当者	目標達成年次	2021年度の計画	2021年度の振り返り	2022年度の計画
6	感染リスクの高い患者に対する中心静脈栄養の無菌調製	医局 看護部 薬剤科	後藤科長	実施済 (2022年度も継続)	医師から依頼を受けた患者に対しての実施を継続する。 在宅患者のTPNの無菌調製の一部を院外処方箋で対応できるよう、近隣の調剤薬局と打ち合わせを適宜行う。	継続して実施できた。定期的な調整依頼についてはほぼ100%対応できた。院外処方箋の対応は個別に実施した。	医師から依頼を受けた患者に対しての実施を継続する。 在宅患者のTPNの無菌調製の一部を院外処方箋で対応できるよう、近隣の調剤薬局と打ち合わせを適宜行う。
7	新型コロナワクチン接種	全職種	本多副院長	2023年	新型コロナワクチン接種の各業務を全職種で役割分担して取り組む。 案内誘導、受付、予診票確認 問診、ワクチン接種、接種介助 接種後事務処理など	計画通り実施できた。2021年度の当院でのワクチン接種は約3万件。2022年1月から3月に行った3回目接種は、係に入るスタッフ数を削減できた。	引き続き新型コロナワクチン一般接種の各業務を全職種で役割分担して取り組む。 案内誘導、受付、予診票確認 問診、ワクチン接種、接種介助 接種後事務処理など 2022年度は職員の負担をできる限り少なくし土曜日午後のみ接種を行う。
8	腰椎圧迫骨折患者の入院期間短縮	医局 看護部 リハビリ科 食膳栄養科 MSW	多職種連携 会合	2024年	(2022年度新規計画)	(2022年度新規計画)	入院早期より多職種が連携して対応することで、患者に最もよいプランで退院・転院支援が行える状態を目指す。月1回、医師・看護師・リハビリ・管理栄養士・MSWが集まり、情報交換からそれぞれの職種からみた課題や提案を抽出し集約する。
9	ロービジョン入院患者に対する退院後の支援	視能訓練科 看護部	楯科長	2025年	(2022年度新規計画)	(2022年度新規計画)	看護師と視能訓練士が連携し、ロービジョンケアや点眼管理が必要な入院患者に対して、退院後外来でロービジョンケアを実施できる体制を整備する。ロービジョンケアの実施状況を半期ごとに評価する。
10	外来看護師による外来患者に対する聴力検査等の実施	リハビリ科 看護部	大川主任	2024年	外来患者に対する聴力検査を、言語聴覚士不在時に外来看護師で実施できる体制を継続する。 耳鼻咽喉科外来看護師が行える検査を段階的に増やしていく。	2021年度は簡易聴力検査を行える耳鼻咽喉科外来看護師の人数が増加した。また、看護師によるティンパノメトリーの練習を開始した。	外来患者に対する聴力検査を、言語聴覚士不在時に外来看護師で実施できる体制を継続する。 2022年度は看護師による簡易聴力検査の実施継続と、ティンパノメトリーの実施を目指す。
11	院外処方箋FAXの設置場所の変更と増設	薬剤科 事務職員	後藤科長	2024年	薬局窓口で説明を受けている患者のプライバシーが守られていない課題について、関連する職種で改善策を検討する。	院外率の増加に伴い、院外処方箋の発行枚数は昨年度より増加している。FAXの台数を増やすと回線が混線するので単純には増やせないことがわかった。院外処方箋FAXに代わる手段としては、各調剤薬局が提供しているお薬手帳アプリの活用が考えられる。	引き続き薬局窓口で説明を受けている患者のプライバシーが守られていない課題について、関連する職種で改善策を検討する。